



▲チャラポコ保存会による録音のようす。各地区から叩き手が集い、それぞれに伝承するリズムを吹き込んだとのこと。



▲初回は、会場に入りきれないくらいの人で、熱気でムンムン!



◀昨年秋の「鬼みちまつり」のようす。軽快なリズムにのって踊り続ける



盆踊りでも定番に。踊れる子どもも多しはす。

# “撮っておき” の たかはま

## 【第39回】

「ひと」「もの」「文化」などなど、有形・無形を問わず、高浜市の日常の暮らしの中にあるとっておきの「お宝」を紹介します。



▲「市内男性の中では屈指の踊り手」を自負する吉岡市長のキレのいい動きにも注目!

## チャラポコ(CHARAPOCO)踊り

鬼みちまつりや盆踊りなど、高浜市の踊りの場には欠かせない「チャラポコ踊り」。リズムを聞くだけで自然に体が動き出す方も多いのではないだろうか。

この踊りは、25年前、市制20周年記念事業“tポートフェスタ”の市民総参加のイベントとして、市の名物の踊りにしようとして創作された。伝統芸能である祭のお囃子<sup>はやし</sup>「ちゃらぼこ」のリズムを現代風にアレンジして考案され、“祭音<sup>さいと</sup>”と“Beat<sup>ビート</sup>”の2種類がある。振付はエアロビクス風や民謡風などバラエティ豊か。当初は、碧海グランドでの“サマーフェスタ”で踊られ、その後、三河高浜駅東広場一帯を会場に盛大に開催された時期もあった。

創作の段階では、もともとお囃子だけであるところに振りを付けるのが難しかったという。当初から携わったひとりで、現在も指導者として踊りを広めている高浜市出身の長田洋子さん(碧南市)は「子どものころ、祭りの朝にお囃子の“ちゃらぼこ”が通っていくのが楽しみでワクワクしたものです。この記憶から、リズムにのりやすくみんなで楽しめる動きだったらいいなと考えました。子どもから高齢の方まで踊れるように、手はグーやパーにする動きがほとんどで、簡単で体にいい動き。1・2・3!などかけ声をいれて、ストレス発散にもなるようにと考えたんです。はじめのころは、まずはいっしょに踊りましょう!といういろいろな方を誘いましたよ。」と語ってくれた。

現在では鬼みちまつりでの、趣向をこらした仮装も名物となった。「見ているよりも踊る方が絶対に楽しいですよ!」という長田さん。誘いに応じて、今年は踊りの輪へ飛び込んでみては。

# LEIA A PÁGINA EM PORTUGUÊS!

ポルトガル語のページを読んでください!(P29)



早期配布にご協力ください。

編集・発行 / 高浜市役所総合政策グループ

〒444-1398 愛知県高浜市青木町四丁目1番地2  
TEL (0566) 52-1111 FAX (0566) 52-1110  
<http://www.city.takahama.lg.jp/>  
電子メール info@city.takahama.lg.jp



VEGETABLE OIL INK 広報たかはまは植物油インキを使用しています。